
脳筋な僧侶さんとあたまでっかちな勇者ちゃん

たこやさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脳筋な僧侶さんとあたまでっかちな勇者ちゃん

【Nコード】

N7371X

【作者名】

たこやさん

【あらすじ】

修行オタクで脳筋な僧侶さんと、理論派だが行動力が伴っていないあたまでっかちな勇者ちゃんによる魔王討伐の旅。

第00話

少女は10M以上はあろうかという石造りの城壁を背に、額に角の生えたウサギ型モンスターと対峙していた。

肉眼で確認できる距離に城下町へと繋がる門があり、門番からもちらが見えているはずだが助けにくる気配はなかった。額の角を突き差さんと一角ウサギは飛びかかってきたが、彼女は一刀のもとに切り伏せる。

「この程度のモンスター相手じゃ試験にならないと思うんだけど」
ブンブンと剣を振り、付いた血を落としながら青髪の少女コーデリアは愚痴る。

冒険者試験（注1）は冒険の書（注2）を手に入れるためのものであったが、
今年は勇者のパートナーを募集するためのものという側面を持っている。

試験会場であるアリアハン大陸に棲息するのは最弱クラスのモンスターばかりで、
魔王討伐の旅に参加できる力があるかを判断するのは難しく、
兵士相手に何人抜きできるかを試験にした方が良いのではないかと彼女は考えていた。

「まあいつか。
試験は退屈だったけど一位通過間違いないだし、勇者様も私に注目

してくれるはず！」

腕に自信がある彼女は自分が選ばれば問題ないだろうと納得し、花の咲いた様な可憐な笑顔で勇者が待つルイーダの酒場へと馳けていった。

第00話（後書き）

（注1）冒険者試験

以下の一連の行動をこなすことができれば、冒険者として認められ、

冒険の書が与えられ、いざないの洞窟の旅の扉の使用も許可される。

↓ナジミの塔最上階で盗賊のカギを受け取る

↓レーベで魔法の玉を受け取る

↓いざないの洞窟の封印を解く

例年は4人までならパーティを組んで良かったが、

今年度は勇者のパートナーを募集するという目的があったため、

パーティを組むことは禁止され、受験者は単独での攻略を強いられた。

（注2）冒険の書

冒険者試験合格者に与えられる名前・レベル・職業・能力値が書かれたカードの様なもの。

精霊ルビスが生み出したもので、人間にモンスターと対抗する力を持たせるために以下の機能が付けられている。

・冒険の書所持者がモンスターを倒した際、その数に応じて加護を与える

・冒険の書所持者がモンスターを倒した際、死骸がゴールドに変化する

上記の術式は世界に刻まれており、精霊ルビスが封印されている現在でも効力はある。

第01話

「いっち番乗り」

満面の笑みを浮かべながらコーデリアは酒場の扉を開いた。

「本当に早かったわねコーデリア！ まだ二日しか経ってないわよ」
カウンターの奥で黒髪の女性ルイーダが目を丸くしていた。

ナジミの塔にたどり着くまで一日、ナジミの塔攻略で一日、
レーベにたどり着くまで一日、いざないの洞窟にたどり着くまで一
日、

そしてアリアハンに帰るまで一日の合計五日間かかるのが例年の受験者。

僅か二日間、それも一人で成し遂げたのだから、ルイーダが驚くのも無理はない。

「この試験のために五年間も修行したんですから、これくらい朝飯前です！

あれ？ そう言えば勇者様は来てないんですか？」

コーデリアは店内と見渡すが、自身とルイーダ以外に人影は見当たらない。

「まだよ、普通は五日間かかるんだから。
勇者様もあなたみたいな規格外には対応してないわ」

目の前の修行バカにあきれ、ため息交じりにルイーダは返す。

「そっか。残念だなあ……それまで二階で休んでますから教えて下さい」

「はいはいって、ちょっと待ちなさい。一日2ゴールドよ」

ルイーダは肩を落とし、とぼとぼと階段に向かうコーデリアを呼び止めた。

「ちえ。ごまかされなかったか」

コーデリアはうまくいったと思ったのになあと、悔しそうに金貨を二枚取り出した。

「そう簡単には騙されないわよ。それにこれ。受け取り忘れてない？」

ルイーダは手のひらサイズのカードを取り出した。

「冒険の書！ 勇者様がいると思って舞い上がっていたからすっかり頭から抜け落ちてましたよ」

冒険の書を持っている人間はモンスターを倒した数に応じて世界から加護を受け、人間の限界以上に強くなることができる。さらに倒したモンスターの死骸がゴールドに変わる様になる。

人間達がモンスターに対抗できているのは冒険の書が存在しているからに他ならない。

「さつさと教会で契約を済まして来なさい。盗まれても代わりは渡さないからね」

冒険の書をただ持っているだけでは意味がない。

教会の神父、シスターだけに伝わる秘術で、この冒険の書の持ち主は自分であると契約を結んでもらうことによって効果を発揮する。

「何言っているんですか。私は僧侶なんだから自分でできますよ」

コーデリアは首をかしげながら言った。

「そうだったかしら。あなたが一日中剣を振っているから戦士だと思ってたわ。」

そろそろホイミくらい使える様になった？」

ルイーダは意地の悪そうな笑みを浮かべた。

「使えますよ！一回だけだけど……」

ほおを膨らませながら心外だ！と大声でコーデリアは答える。もっとも後半は蚊の鳴くようなつぶやきだったが。

職業は教会で洗礼を受けることで決定される。

僧侶と決められたコーデリアだが、

初級回復呪文のホイミすら中々唱えられず、僧侶としては三流以下だった。

しかし、平行して行われていた剣術の修行で彼女は才を見せ、一年目にして師匠の神父の腕前を上回り、二年目以降は城の兵士に混じって鍛錬を行った。

五年経過した現在は国内に彼女以上の使い手はいないと噂される程の腕前になった。

「そう、安心したわ。ホイミすら使えない僧侶を紹介するのは勇者様に失礼だからね。
なら早速名簿に登録するからあなたの冒険の書を見せて」

冒険の書と契約を結ぶと表には能力値が表示され、裏には使える技能が表示される。

「はい。どうぞ」

契約を済ませたコーデリアがルイーダに冒険の書を手渡す。

表

コーデリア

そうりょ

がんばりや

せいべつ：おんな

ねんれい：15

レベル：01

力：15+0

素：10+0

運：06+0

HP：25+0

MP：02+0

裏

そつりょスキル：01

ホイミ

剣スキル：58

攻撃力+30

ドラゴン斬り

メタル斬り

はやぶさ斬り

「はい、登録完了。

今はレベル1だから+の値が0だけど、レベルが上がればどんどん増えるから、

まだ一回しか唱えられないホイミももっと使える様になるわ。

それにしてもMP2は傑作ね。今まで見た僧侶の中で断然の最低値よ」

ルイーダは再び意地の悪そうな笑みを浮かべ、

熟れたリンゴの様に真っ赤になっているコーデリアに冒険の書を差し出した。

「それでは、私は二階で休憩してきますから」

コーデリアはそう早口でまくし立て、足早に階段を上った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7371x/>

脳筋な僧侶さんとあたまでっかちな勇者ちゃん

2011年10月20日02時11分発行